

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	社会学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 指導教員による履修・研究指導の徹底	→履修相談期間設定・実施の有無、論文の中間発表・論文作成指導の回数	B
2. シラバスと授業内容の整合化	→シラバスと授業内容の整合性に関する授業評価の有無、結果分析の有無	B
3. 成績評価の厳格化	→成績評価基準の公開の有無	B
4. 学生による授業評価を踏まえたカリキュラム改革	→学生による授業評価結果を踏まえた改革の有無	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

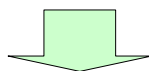
### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.3.1	(方針) 前期課程：アカデミックコース学生は指導教員及び副指導教員の研究演習を必修とする。 (前期課程：専門社会調査士コース学生、後期課程学生については学則上必修とはしていないが、各自の履修計画 上、支障がなければ副指導教員の研究演習を履修することが望ましい) (現状説明) 院生会に対してヒアリングを行い、研究演習を通じた指導体制について定期的に検証を行っている。
☆ 小項目6.3.2	(現状説明) シラバスは全科目に課している。「学生による授業に関するアンケート」を実施し、学生からの授業評価を受けている。
☆ 小項目6.3.3	(現状説明) シラバスで授業評価の方法を明記するよう、大学院研究科委員会にて授業担当者に周知している。
☆ 小項目6.3.4	毎年度末に後期課程在籍者には全員、前期課程在籍者には希望者を対象に研究成果を発表する報告会を実施し、各人の研究の進捗状況について大学院担当教員を中心に指導・コメントを行っている。
☆ その他	

## ◎効果が上がっている事項

## 【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	「学生による授業に関するアンケート」結果をもとに院生会の意見を聴取し、「社会学文献購読(英)A/B」2科目の開講時期について順次性を持たせるとともに、さらに外国人留学生を対象とした別クラスも2クラス設置した。
その他	



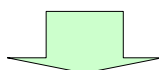
## 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

## ◎改善すべき事項

## 【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



## 【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

## 【学外委員】

- 6.3.4「現状説明」学生のアンケート結果を受けて改善が行なわれていることはPDCAサイクルの実例として評価できます。
- 6.3.2にはシラバスの適切性について記述がありませんが、重要項目なので現状説明を付すことが望まれます。

## 【学内委員】

- 小項目6.3.3は成績評価と単位認定に関する項目ですが、その現状説明は授業評価について述べられています。
- 院生への学習指導は定期的に行われ、またその他シラバスの内容については院生から定期的に評価を受けています。この点に関しては大いに評価できます。評価を踏まえたカリキュラム改革に関しては記載などがなかったため、再度説明することが望まれます。

#### IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

6.3.2 シラバスは全科目に課している。シラバスに記載する項目としては授業の目的、授業内容および授業方法、成績評価方法および基準、学生による授業評価の方法を設けている。「学生による授業に関するアンケート」を実施し、学生からの授業評価を受けている。

★

6.3.4 毎年度末に後期課程在籍者には全員、前期課程在籍者には希望者を対象に研究成果を発表する報告会を実施し、各人の研究の進捗状況について大学院担当教員を中心に指導・コメントを行っている。学生への面談、ヒアリングを通じてカリキュラム改革の原案を作成し、研究科委員会の場で審議の上、決定している。

#### V. 本項目の評価指標

##### <全学的な指標>

6.3.0.S1	大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
6.3.0.S2	履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)
6.3.0.S3	少人数授業の授業形態の調査
6.3.0.S4	規模別講義室・演習室使用状況
6.3.0.S5	マルチメディア教室の稼働率
6.3.0.S6	遠隔授業を活用した授業の比率
6.3.0.S7	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.3.0.S8	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.3.0.S9	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.3.0.S10	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.3.0.S11	各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況
6.3.0.S12	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.3.0.S13	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.3.0.S14	履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
6.3.0.S15	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S16	オープン授業(授業公開)の全授業における割合
6.3.0.S17	学生の授業評価の実施率(全学、学部別)
6.3.0.S18	学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S19	在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
6.3.0.S20	在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
6.3.0.S21	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(キリスト教関連科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S22	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(語学)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S23	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(一般教養的な授業)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S24	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(専門科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S25	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(ゼミ)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率

##### <個別的な指標>
